

結納と仲人

最近では結納を簡略化する傾向が強くなり、仲人なしで結納を行うカップルも増えているようです。しかしひとつひとつの儀式に大切な意味があるように、仲人にも重要な役割があります。そこで結納の中でも、おもに仲人に焦点をあててみました。

◆もう一人の主役・仲人

仲人の起源とは

仁徳天皇四十年の春の二月。天皇は、雌鳥(めとり)の皇女をお妃にしようと思われました。そこで、母親の違う弟の速総別尊命(はやふさわけのみこと)を仲立ちにされたという記事が記紀に出ています。ここで初めて仲立ち=仲人という言葉が出てきます。物語としては、申し込みを受けた雌女が遣いの速総別を好み関係を持ってしまいます。つまり、仲立ちとして申し込みにいった男性と求められた女性とが結ばれてしまったという物語です。これが仲人の起源とされています。

仲人の意味合い・役割

仲人は二人が結婚するための使者であると共に立会人であり、証人です。結納が済み、華燭の典を挙げるまでの間、社会的・常識的に外れたことをしないよう見届け、また親に相談ができないようなことも受けていただける人が仲人です。見守り役、そして二人の良き相談役であり、指導役ともいえます。

また仲人といっても二種類あり、聞き合わせ・お見合い・結納そして挙式までの、いわゆる仲立ちをして結び付きを取り持つ一般的に言われている仲人と、恋愛から結納へそして挙式へと結ばれていく二人の仲人である“頼まれ仲人(杯仲人、名誉仲人ともいいます)”があります。

仲人は月下氷人？

これは中国に古くから伝わる、二つの話からきています。一つは、唐の章国(いこ)が旅先で袋に寄り掛かり月の下で書を調べている老人に会い、「袋の中にある赤い綱で男女の足をつなげば夫婦の縁が結ばれる。」と言われた話。

もう一方は、晋の令狐策(れいこさく)が夢で氷上に立ち、氷下の人と語り合う人を見て、氷下の陰と(女)と氷上の陽(男)が交わる婚姻の仲立ちであると判断した話。この二つの話から月下老も氷上人も共に縁結びの神様とされ、二つを合わせて月下氷人と言い、仲人の雅語として用いられているようです。

◆結納飾りのきらびやかな水引細工。その意味するものとは？

水引細工のひとつひとつにも二人の結婚・幸せに対する思いが込められています。

松 長寿を祝う。松の緑のように永久に栄えるように。

竹 節度と潔白の象徴。一つ一つの節を越え、まっすぐ進む素晴らしく成長をするように。

梅 春一番の花なのでとてもおめでたく、実を結ぶことを祝い、意味します。
※松竹梅を歳寒の三友といい、人生にも耐える事を諭したもの。

鶴 長生きの象徴。
相手の一羽が死んでも次に他の鳥と一緒にならない貞操を保つ鶴のような夫婦になるように。

亀 長生きの象徴。急がずに、ふたりにで一步一步末長く幸せを築くように。

※ちなみに、鶴と亀は出会いを意味し、二人が出会い一緒になると縁起をかついでいるので、並べるときは向かい合わせにしてください。平行に並べては二人が出会えませんので結納の意味が半減します。

結納Q&A

Q. 結納の時、お母様への土産はなぜ真綿(東海地区)なのですか？

A. 古事類苑によれば“真(本当)の心・偽りのない心”のしるしとして真綿を贈るようになり、近年では座布団仕立券を付けて贈る傾向にあるようです。また、真綿には大きく伸びる性質があり、そこから長生きができるように、二人とも長生きができるように、という意味があります。